

ずいそう

趣味と共に歩んだ人生

加瀬 哲 司



私はこれまで52年間、水門の設計に携わってきましたが、小さい頃から「体を動かすこと」が大好きでスポーツをすることが趣味でした。

小学生時代は「体操」中学時代「ソフトテニス」高校時代「弓道」と学生時代を過ごしました。

社会人になってからは、興味を持っていた硬式テニスを始めました。中学時代のソフトテニスと打ち方の違いで最初は少し戸惑いがありました。

サークルに入った時の自己紹介で、「毛の生えたボールのテニスボールは初めてなのでよろしくお願いします。」という挨拶したところ、「毛の生えたボール」と言ったことに爆笑され、その後の懇親会毎に何度もいじられ続けました。

テニスについてはその後、週1回練習と年1～2回の大会参加や合宿等で20年程続けましたが、場所の確保が難しくなったこととメンバーの高齢化で、参加していたサークルが解散することになりました。

ちょうどその頃、会社が不要となった敷地内の一角に写真-1のようなテニスコート1面程のゴルフの打ちっぱなし練習場を造ったことを機会にゴルフをカジり始めました。

テニスを行っていた当時ゴルフに対する考えは、テニスや野球と違って止まっているボールを打って、ただ歩き回っているだけでどこが面白いのかと心の中で思っていました。

ところが始めてみるとその止まっているボールがなかなかうまく当たらず、当たったとしても芯からずれて左右に大きく曲がるが多く、とても難しく奥が深いスポーツであることが分かりました。



写真-1 工場内のゴルフ練習場

始めた当時、先輩から初心者はいきなりコースに出ると周りに迷惑を掛けるからと言われていたため、約一年間練習場通いをしてからコースデビューしました。練習を重ねることで、時々芯の近くに当たり真っすぐに飛球が出始め、また徐々に距離も伸びていくことに喜びを感じ、コースに出られない練習も全く苦になりませんでした。一年間コースに出られないなんて…と思う方もいると思いますが、結果的には練習を重ねたことで2回目に二桁の成績を出すことが出来ました(年齢を重ねそれも困難となりました)。

また、初めてコースに出た時の緑の美しさと、広々としたコースの爽快さにもすっかり魅了されました。

ゴルフは体が動く限り続けることが出来るスポーツです。ゴルフしたことが無い方へも是非お勧めしたいと思います(一年間も練習する必要はないと思いますが)。

話をちょっと止めていたテニスに戻しますが、60歳に達した頃に人生で初めて、単身で約3年間の長期出張をすることになりました。出張先は、メジャーリーグ大谷選手の出身地として有名になった岩手県奥州市です。そこで地元のテニスサークルに入れて頂き、時々飲み会にも参加させてもらえたので、テニスをやっていたおかげで休日を楽しく過ごすことが出来ました。

その後長期出張が2回続きましたが、今度はゴルフを楽しむ方ならご存じだと思いますが、最近何時からか「一人ゴルフ」と言うシステムが出来たため、それを利用してその間を楽しみました。

一人ゴルフとは、自分がやりたい時に申込み、全く知らない者同士と一緒にプレーするシステムです。そこで気が合えば再会し再度一緒にプレー出来ます。

またそれとは別に健康維持するため定期的に何か楽しみたいという気持ちがありました。

そこで場所取りが困難なテニスをあきらめ、それに代わるものとして続けてきたテニスに比較的似ているバドミントンのサークルを探していた時、近くの公民館で卓球のサークルを見つけ覗いて見たところ、見学を勧められラケットも貸してくれたので、30分程打たせてもらいました。

卓球はこれまで殆ど経験が無く温泉旅館卓球程度でしたので、ちょっと速いボールは全くテーブルコート

内に打ち返すことが出来ず無理かなと思いましたが、温かく熱心に誘われたので入会することになりました。

入会後練習を重ねるにつれてテニスの経験を活かし次第に打ち返すことが出来るようになりました。

そして時々テニス打ちですが強いショットが打てた時の対戦相手や観戦している人の驚く顔を見ることが快感となり、楽しんで継続していけると思えるようになってきました。

また最近では年齢と共に体の動きが悪くなる将来を考慮し、正式なゴルフより身体に負担の少ないパークゴルフもこの卓球仲間の勧めで始めました。

このようにスポーツをやってきたおかげで多くの人とのつながりが出来、多くの楽しい仲間恵まれております。

私にはスポーツの他にもう一つの趣味があります。それはモノづくりです。

子供の頃からプラモデルに興味を持ち、最初はお金もなく作るものはたわいもなく小さいものばかりでしたが、社会人になってからは次第に大きなものに挑戦し、「戦車」や写真—2のように長さ1m以上の「戦艦大和」の本物を意識してペイントも施し、自己満足していました。

50歳の頃には自宅を建て替えたことを機に「木工」に興味を持ち、座卓・食器棚・ベランダのテーブルとベンチの製作に取り組みました。

座卓は、単なる厚さ25mm×幅500mm×長さ1,350mmの板に取外し(ねじ式)可能な脚を取付けたものですが、天板を重ねて収納することを考慮して、板に凹みを設けその厚み内にナット金具を納める構造としました。

この座卓を4台作り(ニス塗)必要に応じた台数を組み合わせて使用していますが、最大幅1m×長さ2.7mの大きさになり14~15人で利用出来るので今でも重宝しています。

食器棚は、妻が趣味で陶器を集め始めて、それを飾る棚が欲しいという要望からCAD作図を手始めに製作にかかりました。

構造的にはただ床に置く構造では、奥行きが浅く(約15cm)安定性に欠けることから、写真—3のように



写真—2 プラモデル(戦艦大和)

壁をくり抜き、壁の厚さ内に納める構造としました。安定性を確保すると共に部屋内の景観もスッキリさせることが出来ました。

ベランダ用テーブルとベンチの製作は、廃材となっていた電線ケーブルの木製ドラムの丁度良いサイズを利用して製作し、そのベンチも主にその木製ドラム数個を解体して製作しました。

我が家は土地が狭いことからリビングとキッチンと2階にしましたが、これが功を奏しベランダへのアクセスが容易となったため、子供達家族や時には会社の同僚の皆さんと写真—4のようにバーベキューをして時々楽しんでます。

現在スポーツについては、月1回のゴルフと時々のパークゴルフ、そして卓球を週3回(2~3時間/日)で楽しんでいます。

モノづくりについても最近怠っていますが、機会があればまた何か作ってみたいと思っています。

これまで、趣味を通じて素晴らしい仲間に出会い、楽しい時間を過ごせたことに大変感謝しています。

後期高齢者となった今、いつまで続けられるか分かりませんが、これからも身体が許す限りこれらの趣味を前向きに続けていきたいです。



写真—3 壁をくり抜いて設置した食器棚



写真—4 自作の木工製品を利用したベランダでのバーベキューの様子